

$$R=0.672 \quad S=230624 \quad DW=1.894(0)$$

$$AS=1673900-0.678368S_i+0.208288Q-0.203523C$$

$$(0.301495) \quad (0.458420) \quad (0.177618)$$

$$-28745.9P$$

$$(42142.4)$$

$$R=0.672 \quad S=241876 \quad DW=1.893(0)$$

東側の在庫水準については比較的相関が高いが、在庫増減についてはどの式も相関が低いか係数の符号が逆である。西側諸国についてはすべてあてはまりが悪い。

(6) 生産のない国

このグループに属する国についての計測結果は次のとおりである。(S<sub>J</sub>=176509)

$$S_J=-943.330+0.136242C-11991.3P$$

$$(0.0973031) \quad (6007.89)$$

$$R=0.552 \quad S=35266.5 \quad DW=0.752(+)$$

$$AS=27173.4-0.434265S_i-13539.4P$$

$$(0.180658) \quad (4838.87)$$

$$R=0.761 \quad S=28217.5 \quad DW=2.200(0)$$

$$AS=-46390.9-0.488516S_i+0.0842535C+13975.7P$$

$$(0.187197) \quad (0.0803289) \quad (4836.73)$$

$$R=0.786 \quad S=28100.6 \quad DW=1.871(0)$$

在庫水準については相関が低く、消費量との関係も低いようである。在庫増減についてはある程度相関が高いが、第3の式では価格の符号が逆である。むしろ第2の式、すなわち期首在庫と国際糖価によって在庫の増減が影響されるということのほうが、実態を表わしているであろう。

(7) 総括

(a) 一般に、消費が増加するにつれて在庫を増大させる傾向がみられる。

(b) 生産量の一部を輸出する国、および消費量の一部を輸入する国、すなわち国内生産と国内消費がほぼ等しい国では、在庫形成の意図がはっきりしているが、輸出依存率または輸入依存率の高い国では、関係が不明確である。

(c) ビート糖生産国のほうが甘蔗糖生産国に比べてあてはまりがよい。

(d) 東側諸国のほうが西側諸国よりもあてはまりがよく、在庫形成の意図がはっきり現われているようである。

(日本精糖工業会調査課長 平野哲郎)

所 報

◆在外職員の動き

出 発

氏 名	派遣地	課 題 名	出発月日
井ノ上善幸	クアラル ンプール	マレーシアにおける土地 政策の課題とその施策 ——特に土地開発施 策を中心にして——	9月3日

◆海外からの来訪者

9月中の海外からの来訪者はつぎのとおりである。

(1) 9月6日(金), Prof. Harry T. Oshima (Department of Economics, University of Hawaii)。調査研究の諸問題について懇談ののち, "The Growth of Income and Unemployment in Asian Countries" のテーマで講演した。

(2) 9月11日(水), Prof. John M. Allison (University of Hawaii, 元駐日アメリカ大使) が東南アジア研究について懇談のため来所。

(3) 9月16日(月), Mr. Victor G. Rastyannikov, Mr. G. K. Shirokov (Senior Research Scholar, Member, Scientific Council, Institute of Peoples of Asia, USSR Academy of Sciences) の両氏が研究所見学のため来所。

(4) 9月25日(水), Dr. N. Ramachandran (A. P. O. Liaison Officer for Ceylon) ほか6名がアジア生産性機構から、生産性運動視察団として研究所の調査研究活動の状況見学のため来所。